

# 「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【緑区】

## 〈開催概要〉

日 時：令和4年7月31日（日） 14：00～15：30

会 場：緑区役所

参 加 者：14名（傍聴者0名）

市出席者：市長、デジタル改革推進部

事 務 局：市長公室秘書広報部広聴課

開催テーマ：デジタルでシンカするさいたま市

～デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進～

### 参加者との意見交換

#### ●参加者

##### 〈発言1〉

デジタルデバイドについてお話しします。DX推進に向けての課題は、高齢者のデジタルリテラシーだと思います。高齢者がITに慣れ親しんでいるかです。高齢者がそうなり得ていれば、全ての年齢層で人間系の知的インフラが整います。現状はどうでしょうか。デジタルに関する冊子を市内の高齢者に見せたら、大半は身を引くと思います。ますます世の中に取り残されてしまうと悲観します。

一方で、ITを扱えるか否かは死活問題に直結すると、高齢者は身にしみてわかっています。ワクチン接種申込みには大層難儀しました。生きるか死ぬかの出来事でした。

さて、高齢者がパソコンやスマートフォンを学べる身近な場所に公民館があります。活発な動きをしているのは南区の公民館です。隣の区民やもう1回学ばせてほしいという人が申し込むので毎回定員オーバーをし、抽選となります。その他に知られていない、総務省主催の講座もあります。

そこで、結論なのですが、さいたま市役所が主導して、高齢者向けの仮称「デジタル孫の手」をスタートしてほしいのです。「デジタルに慣れ親しみましょう」、「扱い方について何でも聞いて尋ねてください」というのがデジタル孫の手です。予算は少なくても済むと思います。講師や相談員はN T Tやa u、ソフトバンクが競って派遣してくれます。機材も持参してくれます。是非、仮称「デジタル孫の手」を御検討ください。

##### 〈発言2〉

行政手続きをコンパクトにして、簡単にしてほしいと思いました。典型的な手続きを説明したルールブックを窓口においてほしいと思いました。安全なパソコンを利用できるようにすることと、手続きをローコストにしてほしいと思いました。パソコンやインターネットなどの操作方法をコンパクトにまとめて、より一層わかりやすく、手続きを短時間で処理してほしいと思いました。窓口には介添人をつけて、速やかに手続きをできるようにしてほしいです。車椅子やバリアフリー対応型になってほしいですし、機械に弱い方でも手続きできるようにしてほしいと思います。画面の表示方法などについて、良心的な専門家と協力して、話し合っていたいただきたいと思います。

### ＜発言3＞

令和7年度までに行政手続きのオンライン化を目標にしているということで、期待したいと思っています。

私が一番心配しているのは、学校がオンライン化から取り残されてしまうのではないかとことです。これは細田教育長の分野になってしまうかもしれないのですが、コロナ禍になってようやく欠席や遅刻確認などがGoogleフォームになったぐらいで、特にそれ以外にオンライン化をしていると感じることはありません。先生は教材購入についても現金で集めていますし、プールカードや健康観察カード、プリント類の配付も全部今までどおり、変わらずアナログで動いています。先生にとっても、そういう雑務がものすごく負担になっているのだろうと思います。

そういうところを各学校に任せるのではなくて、市として支援していかないといけないと思います。例えば、オンラインで買えるようなものは、学校を通さずに、購入業者から直接買えるようなシステムを支援していくなど、先生の業務を削減していかないと、学校だけがオンライン化からどんどん取り残されていくのではないかと感じました。

また、子育てをしていて感じるのですが、青少年宇宙科学館のイベント申込みはいまだに往復はがきを使用しています。当たるにせよ、外れるにせよ、往復はがきで天体観望会などの申込みをして、外れましたとか、当たりましたと、往復はがきで返ってきます。それはいつになったらデジタル化するのだろうと感じています。

さいたま市GIGAスクール構想を進めていて、夏休みには、希望者はタブレット端末を持ち帰れるのですが、それほど推し進めている感じはしないので、もう少し学校に市長も関心を寄せていただいて、学校のデジタル化を進めていただけたらと思っています。

### ＜発言4＞

DXを是非積極的に進めていただきたいと思います。これまでのお話の中でも、お年寄りを中心とした、デジタルデバイドをどうするかという問題がありましたが、変化のときには必ずそういう部分は出てくるわけです。そこに引きずられていたのでは全然進まないと思います。

今後こういうものが世界の潮流ということであれば、さいたま市にも積極的に進めてもらいたいです。格差が出てくる部分については、介護であれば、肉体的な面での介護は整いつつあるわけですから、情報や知識という部分も介護の範疇に入れれば、そういう人たちをお手伝いすることはできると思うので、是非進めていただきたいと思います。

デジタル化自体が目標になっているのではないかと感じます。住民にとっては、デジタルだろうと、アナログだろうと、素早く行政サービスをやっていただければどちらでも構わないわけです。ですが、例えばテーマ説明資料の中に、自治会の回覧板をデジタル化するとありましたが、回覧板は紙でお隣さんに配ることによって、地域の絆が生まれていくのに、やりやすいからデジタル化していくと、デジタルという手段が目的化してしまっているのではないかと思います。デジタルがよいかどうかは、いろいろと議論する場面がたくさんあると思いますので、是非そういうところに目を向けて、判断していただきたいと思います。

### ＜発言5＞

コロナ禍で行事がたくさん減ってしまい、先日ようやく修学旅行に行けたところです。授業もリモート化していて、私が入学してから2か月間は家でリモート授業を受けていたので、友達とやっと会えたのが6月でした。リモート化をするのはよいのですが、それで生徒同士や、地域の方々とのコミュニケーションを取る場所が減ってしまって、それこそ人々が交流することの障害になっていると考えました。リモート化が浸透している今だからこそ、Zoom等を使ってオンラインで生徒同士や地域の方々と交流できる制度をつく

るとよいと思いました。

学生に限らず、自分の身の回りに人が少なくてもたくさんの人と交流できるシステムがあれば、孤独を感じている方々と交流する機会が増えます。生徒はコミュニケーション能力が培われ、将来活躍する力が高まると思いました。そうすると、世代を越えた友達ができ、コロナ禍になる前よりも、さいたま市民がもっと明るくなるのかなと考えました。

#### <発言6>

いろいろな方の意見で、高齢者のお話が出たと思います。私も祖父母と一緒に暮らしているのですが、祖父母たちは自分が思っているよりもデジタルについてわかっていないと感じています。祖父はあまり体がよくなって、スマートフォンを最近買ったのですが、手が震えてしまって画面を正しく押せないこともあります。デジタル化をすることはとても素晴らしいと思うのですが、制度やアプリの設計をするときに、いろんな人がいることを前提にしてほしいと思います。例えば、新型コロナウイルスワクチンの接種予約もインターネットでできたと思うのですが、文字がすごく小さく、あまり使いやすい印象がなかったため、文字を大きくするか、デジタルについてわからない人もいると思うので、全部デジタル化をするのではなく、既存の方法も一部残すのも大事だと思っています。

#### <発言7>

自治会の活動を通して、地域の皆さんの御意見を聞く機会があるのですが、カタカナや英語の専門用語については、例えば対訳マニュアルみたいなものをつくるとよいのではないのでしょうか。作成はシルバー人材センターの経験値のある人などをお願いし、さいたま市らしさのあるものになるとよいと思います。

最近では電気自動車の話も出ていて、美園ではプロジェクトが動いていますが、電気自動車を走らせている自治体の空気がきれいになっても、それを充電している電気を発電する施設のある自治体が今度は汚くなってしまいます。今後ますますエネルギーの保存の手段が問題になると思います。例えば、バッテリーが劣化した際の交換や、廃棄をどうするかということです。その解決のために、例えば見沼たんぼを活用して、地元の資産も残しながら発電ができるようなシステムをつくるか、埼玉スタジアム2002を、さいたまスーパーアリーナのように、災害時に活用する方法を考えるとというように、さいたま市らしさのある、災害の時でもDXの推進にあたって、独立性のあるロードマップをつくってみんなで共有していきたいと考えています。

#### <発言8>

超高齢社会に入ったということで、デジタルをうまく活用しながら様々な分野で推進していくのはとてもいいことだと思っています。自分が60代後半にもなると、デジタルに関してなかなか取り掛かりにくいところがあるのですが、それなりに頑張っています。ただ、それについていけない高齢者は、今後どのようにやっていけるのかなと心配です。国が進めているからには、デジタル化のメリットはたくさんあると思うのですが、メリットとデメリットがうまく具体的に示されると、個人的にはわかりやすいと思います。

#### <発言9>

これまでホームページや電話、窓口からいろんな種類の間合せがあり、そういったものがビッグデータとして残っていると思います。そういったものにAIを活用して、間合せを適切にタイムリーに割り振りすることができれば、職員の方もとっても楽になりますし、市民にとっても、窓口がたくさんあってどこに何を相談したらいいのかという状態が解消されてよいと思います。川崎市では、2018年にAIを活用した間合せ支援サービスを立ち上げ、今年はAIチャットボットもホームページ上で運用しているので、さいたま市も是非そういったものに取り組んでいただければと思っています。

### <発言10>

さいたまデジタル八策の説明の中で、農業のデジタル化というお話がありました。埼玉県には見沼たんぼという恵まれた農地がありますが、農地が有効活用されていないところもあり、飛び地になっていたり、小さい区画で農業していたりするところもあると思います。そういった農地にデジタル技術を導入し、農業の大規模化をしたり、埼玉県の農業のよいところを伸ばしたり、今注目されているプラントベースフードにも取り組んだりすることで、デジタル化を推進したさいたま市の農業を発信することができ、収益も上がってくると思います。

今在宅勤務をしている方が多いと思うのですが、今まで東京都に出勤していた方の中には、さいたまで時間を持て余し、エネルギーのある方もいるのではないかと思いますので、副業としてさいたま市で雇用を増やし、税収を伸ばしていく形で、見沼たんぼの農地を活用していくとよいのではないのでしょうか。

### <発言11>

さいたまデジタル八策で、DXの推進の骨幹ができてきたと思うのですが、素晴らしいシステムが構築できるにしても、単年度ではできないものですから、お金がかかることだと思います。さいたま市では、このさいたまデジタル八策を基に今の段階である程度ロードマップができていくのかについて知りたいです。

### <発言12>

DXは推し進めるべきだと思いますが、これまでお話が出ているように、高齢者にとっては非常に厳しいことが多々ありますので、その辺りの配慮をお願いします。

DXの推進にあたり、重点的に取り組んでほしい分野は選挙の投票です。先日も選挙がありました。私が子どものときに母親に連れられて選挙に行ったときから、数十年間やり方が変わっておらず、いまだに氏名を書きます。初めて清水市長が市長選挙に出たときに、投票に行き、清水はわかるのですが、勇人の字がわからなくなったことがありました。これもタブレット端末でボタンを押すようにすればすぐに終わります。また集計作業も、毎回市役所の方は残業までして大変だと思います。なぜ数十年もかかってデジタル化できないのでしょうか。

近年は投票率が低いと言われていますが、これだけ時代が進んでいるのに、なぜ自分の家にあるスマートフォンやパソコンから投票できないのでしょうか。これは公職選挙法の問題もあるかと思いますが、市役所から送られてくる通知でパスワードをお知らせするような形でできると思うので、検討してほしいです。

デジタル施策を進めるに当たっても配慮が必要だと思います。先日、尼崎市役所で個人情報が入ったUSBメモリを、委託会社の社員が紛失した事件がありました。また、KDDIの大規模な通信障害もありました。これらは本を正せば全て人災ですので、清水市長をはじめ全職員には、目に見えない情報に十分な配慮をしてほしいです。万が一、想定外のことがあるのであれば、速やかに市長から知らせてください。

私は個人的には対面が大好きです。ただ、大量、迅速、正確等の観点から、今回のDXは進めていくべきだと確信しています。

### <発言13>

時代の流れに沿って、こういうものを習得していかなければいけないのだなというのが、個人としての実感です。ですが、ニュースなどでセキュリティの問題が出てくると、すごく怖いという思いが先に立ってしまいます。令和7年度までに手続きをオンライン化するということですが、そのときまでに、介護保険料や保育料などをキャッシュレス化し、口座やクレジットカードなどと紐づけすることになると思います。

ある新聞に、自分の親が亡くなったときに、どのようなアプリを入れて、何を契約していたかがわからず、キャッシュレス化していたものが、ずっと引き落とされてしまっていた、というお話が掲載されていました。相続の問題とも絡んでくるので、後々の人のためにも、高齢者はどうしておいたらいいのかと考えると、安易にスマートフォンにアプリを取り入れたり、キャッシュレス化したりすることが怖いのです。そういったところも考えてほしいと思います。

## ◆市長

### >> 発言 1

デジタルに取り残される世代への配慮についてのお話をいただきました。私たちもワクチン接種の予約の際に、デジタル機器に慣れていない世代の皆さんがたくさんいるということを改めて認識しました。現在は、各区役所や一部の公民館、図書館のほか、民間の商業施設にも御協力をお願いして対応しているのですが、当初のシステムは非常に受皿が小さかったものですから、すぐパンクをするような状況もあり、その後全部違うシステムに変えたということもありました。

デジタルを活用していく上で、デジタルリテラシーについて市民の皆さんに知っていただくことは必要不可欠なことだと思っていますので、十分に組みたいと思います。

また、デジタル孫の手という、すばらしい御提案をいただきました。今さいたま市には、地域ICTリーダという制度があり、一定の人数がいて聞いていますが、まだ十分に活用し切れていない状況です。他にも例えば、若い皆さんや、民間事業者の皆さんにも御協力いただくなど、担い手はたくさんいると思うので、そういった皆さんのお力も借りながら、デジタル機器の使い方や注意事項を地域の皆さんにお伝えし、御理解をいただきDXを進めていきたいと思っています。

### >> 発言 2

ルールブックを窓口に置くとか、窓口に介添人を配置するといった具体的な御提案をいただきました。例えば区役所に来たときに、現時点ではいろいろと申請書などを書いていただいているのですが、窓口で職員が申請内容を聞き取りながら入力をする、「書かない窓口」のようなやり方など、デジタル化の進め方はたくさんあるのだと思います。

デジタル化を進めることによって、内部の業務効率化も図れますし、誤りも少なくなってくることもあるかと思っていますので、いただいた具体的な御提案も含めて考えていきたいと思っています。

### >> 発言 3

学校のデジタル化について、実態も交えて御意見をいただきました。今、校務についてもデジタル化を進めているのですが、教育内容のさいたま市GIGAスクール構想と比べると、取組が見えにくいところがあることを改めて感じました。

出欠席や健康カードのお話が出ました。これも今教育委員会で検討してくれているのだと思いますが、例えば体温の測定についても、カードではなくてデジタル化した方が先生にとっても、御家庭にとっても簡単だと思います。学校教育だけではなく、校務も含めてのデジタル化は、まだ途上なところがあると思いますが、こういったところも含めてデジタル化を進めていき、保護者の皆さんにもわかりやすくしていくことが重要だと思いますので、しっかり組みたいと思います。

また、タブレットについては、なるべく家に持って帰ってもらってよいとお話をしている、通信環境の悪い御家庭への支援体制も組んではいるのですが、まだ学校によって差があるのだと思います。改めて私たちの方からも確認をしながら進めていきたいと思っています。

### >> 発言 4

DXを積極的に進めてほしいというお話をいただきました。その中で、デジタル化を目的化してはいけないというお話がありました。本当に私もそのとおりだと思います。デジタル化が目的なのではなく、市民が住みやすい環境をつくっていくための手段の一つがデジタル化であると思っています。

人との交流についてのお話もありました。自治会の回覧板の例を挙げていただきましたが、デジタル化をすると、人と直接会わないで何でもできるようになります。ただ一方で、人とのつながりや絆を大切にすることは非常に重要だと思っていますので、本末転倒としないように進めていくことが必要だと思っています。

## >> 発言5

デジタル化によって、人と人とのつながりが少なくなってしまうたら、おっしゃるとおり、全く意味がないことですよね。むしろデジタル化によって、直接会う機会に加えて、もっと頻繁にコミュニケーションができたり、交流が盛んになったり、さらに絆が深まったという社会にしていかなければならないと思いますし、私たちもそこを目指していかなければいけないと思っています。技術ばかりが先に行き、家でただ座っていれば何でもできてしまうのが人間にとって本当に幸せなのかといたら、私は決して幸せではないと思っています。

2年ぐらい前に、『人と人を絆で結ぶスマートシティ』という本を書きました。デジタル技術が進み、座っているだけで何でもできてしまう社会を目指すのではなくて、人と人の絆を深める手段の一つとしてデジタル化があり、デジタル化が先ではいけない、という思いを込めて書きました。そこを間違えてしまうと、孤立感が高まってしまったり、人と人が直接会う機会を失ってしまったりと、本末転倒だと思いますので、私たちもそのことは非常に気をつけなければいけないと思います。むしろこの機会に生徒同士の皆さんの交流が深まるような取組をやってはどうか、という御提案はすごく重要なことだと思います。

## >> 発言6

デジタル化をしていくためのいろいろな制度設計をしていく上で、文字を大きくするなど使いやすくするために、きめ細やかな配慮が必要だという御意見をいただきました。一律で考えることではなくて、どうしたら市民の皆さんにとってわかりやすく、簡単に使えるものになるのか、という視点を持ちながら進めていかなければいけないと思います。

私たちは、全ての手続きをデジタル化することを目指していますが、それだけを考えているわけではありません。世代によっては、例えばスマートフォンやタブレットを使うとなると、それだけでハードルが1個あり、使い続けるとなるとさらに課題を抱えることもあると思います。生まれながらにしてスマートフォンやパソコン、インターネットがある世代とは違う悩みや大変さがあると思いますので、そういった皆さんにも十分配慮して、対面は残す必要があると思っています。

## >> 発言7

テーマ説明資料に専門用語が多用されているという御指摘や、計画を進める中で、さいたま市らしさを考えてほしいというお話、カーボンニュートラルのための様々な取組など御提案をいただきました。専門用語については、カタカナや英語を使う言葉が多くて、またなじみのない言葉がたくさん使われていて、わかり難くなっていると思いますので、できるだけわかりやすい表現にしていきたいと思っています。

それから今、デジタル化と併せて、2050年に二酸化炭素排出量ゼロを目標に脱炭素化、カーボンニュートラルへの取組も進めています。さいたま市には見沼たんぼという自然豊かな空間が残っている一方で、新しいスマートエネルギーも非常に早くから導入して取り組んできまして、国の脱炭素先行地域に指定していただきました。こちらの政策について



も、市民の皆さんにわかりやすくロードマップをお見せしながら説明をし、御理解をいただけるようにしていきたいと思っています。

### >> 発言8

デジタル化については、メリットとデメリットがあると思います。メリットもたくさんありますが、もう一方で、デジタルを適正に活用しないことで、様々な問題が起きることもあると思います。事前にデメリットをお伝えすることで、使い方に気をつけ、仕組みについて御理解をいただくことはすごく重要だと思いますので、行政としてデメリットをできるだけ少なくするための仕組みづくりと、それをお伝えするための、デジタル講座のような学習する機会を用意することにも取り組んでいきたいと思っています。

### >> 発言9

今さいたま市ではコールセンターを一本化しています。例えば緑区役所宛てに電話をかけても、本庁宛てに電話をかけても、全て統一してコールセンターで受けて、Q & Aで答えられるところはなるべくコールセンターで対応して、必要があれば、現場の担当所管につなぐという方法を取っています。

時期によって問合せの傾向が変わってきまして、新型コロナウイルスワクチンの接種が始まったときには、ワクチン接種についての問合せが多くなったり、夏場の花火大会の時期になると、今年は花火大会をやるのかどうかという問合せが多くなったりします。その時期に合せた問合せや相談の体制をしっかりと作っていくことも重要だと思っています。

また、AIチャットボットを使った川崎市の取組なども御紹介していただきました。機械的に答えて解決ができる部分とそうでない部分を区別しながら、個々の相談に対応しなければいけないところは、きめ細やかに対応できる体制を取り、一般的な回答で対応できるようなところについては、なるべく省略化しながらお伝えしていくように、両方の視点で対応していくことが必要だと思っています。

AIについては、今保育所の利用調整に活用していて、点数によって自動的に保育園が決まるような取組をしています。こういった取組などを含めて、単なるデジタル化だけではなく、AIのように様々な技術を活用しながら、市民の行政サービスの向上や、業務の効率化を図っていきたいと思っています。

### >> 発言10

農業のデジタル化を推進してほしいというお話をいただきました。さいたま市では、市民の森で、ICTを活用した農業の実証実験を実施しています。また今年度からは、ビニールハウスを使って、工場のような形で室温を管理し、水や風の量を管理しながら生産をしていく形の農業を実施する民間への支援をスタートしました。

さいたま市は東京に近く、都市型農業という面で大変期待をされているエリアですし、また、さいたま市や埼玉県として考えても大きなマーケットを持っているエリアでもありますので、効率化していくことによって、さらに農業の魅力が高まることにもつながると思います。また、副業としての楽しみ方もあるのではないかと御提案もいただきました。家でテレワークをしながら農業をするライフスタイルができれば、さいたま市の魅力の一つになるのではないかと思います。そういった取組も含めて検討していきたいと思っています。

### >> 発言11

財政的な措置については、計画の中で明確にはしていませんが、令和7年度に向けて優先順位をつけながら進めています。デジタル化を進めることによって、市民サービスの向上に繋がったり、業務が効率化されて働き方改革に繋がったり、さらにコスト削減へと繋がることとなりますので、担当部署にはもっとスピードアップしてくれと言いながら進め

ているところです。

コロナ禍前までは、事業1つ1つ丁寧に企画をして、それをどのように制度設計をするか綿密に調整し、1～2年かけながら構築をしてきました。しかし、コロナ禍では毎日状況が変わるという中で、毎日のようにミーティングをして、新しい方策を取るのにも、数日や1週間で進めてしまうということもありました。行政としては、もっといろいろなリスクを提示したり、気をつけなければいけない点もあったかもしれませんが、一人でも多くの命を救わなければいけない前提の中で、迅速に対応しなければこの期間を乗り越えられませんでした。できるだけ完璧な状況を目指しつつ、タイミングによって実行しなければ間に合わないこともたくさんありますので、スピード感も意識しながら進めていきたいと思っています。

## >> 発言12

選挙についての御意見をいただきました。選挙のデジタル化は、一番具体的で、一番デジタル化の効果が上がるものではないかと皆さん感じているかと思います。公職選挙法との関係や、全国的に実施する場合のセキュリティ、また、自由で公平で秘密投票ということになると、まだ課題はあるかもしれません。しかし、地域内の投票所に行ってデジタルで投票するという方法は、一部の自治体では取り入れ始めている状況でもありますし、その後の開票事務の問題も考えれば、デジタル化は導入されるべきことだと思います。そういったことも含めてしっかりと考えていきたいと思っています。

尼崎市のUSB紛失のお話や、KDDIの通信障害のお話もありました。デジタル化は、セキュリティの問題や個人情報に配慮して、リスクをどれだけ低減し、どれだけ安全な状況で導入するかが大前提ですから、スピード感を持ってと言いつつも、この2つは最低限確認をしなければいけない重要なところだと思っています。

## >> 発言13

先ほども尼崎市のUSBデータ紛失事件についてのお話がありましたが、基本的には、さいたま市を含めたほとんどの自治体で、USBで情報を持ち出すことは禁止されています。ですが、実際にはできてしまうということから、人災に近いことなのだと思います。ですから、行政が関係することによって、その安心感を与えなければいけないのだと思います。さいたま市が関係するから、自治体が関係するから、民間のものよりもセキュリティが高く安心であるということ、皆さんに伝えていかなければならないと思いますので、私たちの責任は重いと思っていますし、セキュリティの問題は非常に重要だと思っています。

また、最近ではデジタル遺産という、本人の死後にアプリなどの記録がそのまま残ってしまったり、お金についてもネット銀行に預けていたりという状況がありますので、そういう事例も含めて啓発をしていきたいと思っています。

## ●参加者

### < 発言14 >

高次脳機能障害という脳血管疾患の障害があるのですが、大崎むつみの里に教えてもらったアプリを使うことによって、生活が少し楽になりました。

あと、障害支援課にお願いして、サードパーティのブレインストーミングも緑区役所で開催することが決定しました。参加する方が脳卒中の方なので、施設や事業所、行政などの関係団体に来てもらおうと思っています。

### < 発言15 >

テーマから外れてしまうのですが、お話ししたいことがあります。先ほど市長のお話の中で、さいたま市を選んで転入してくる方が多いというお話がありまして、実際に引っ越



してくる方が最近とても多いです。私も数年前に引っ越してきたのですが、正直選んで引っ越してきたというわけではなくて、利便性や通勤のしやすさ、買物のしやすさなどを総合してさいたま市にしたというのが正直なところですよ。

引っ越してきた当時は保育所が足りないということで、大変困ったのですが、最近は急激に改善されまして、市長や担当の方のいろいろな働きによるものだと思っています。ですが、最近私の周りでは保育所は足りているが、保育所から出た後に小学校1年生になって、学童保育所に入るのにすごく困ってしまうという話がよく聞こえてきます。

さいたま市は公設の学童保育所はつくらないというお話を聞いていますので、民間か父母運営の学童保育所か、どちらかになってしまいます。学校の近くで預けたいとなると、父母運営の学童保育所が多く、父母運営というのは、働きながら自分たちで運営していくという学童保育所なので、それがすごく大変です。民間に預けるとなるとお金がかかり、違う負担がかかってきます。そういう声が聞こえてきますので、学童保育所の件を何とか市長にお願いしたいと思います。

#### <発言16>

市の職員も市民も、一人きりで問題を抱え込み、くよくよ考えないようにする生活をしていけたらいいと思います。皆が健康な市民として一人でも自立して生活できるように、趣味などをもち、心豊かな生活をしたほうがよいので、そういった面の専門家に協力を得られるとよいと思います。

#### <発言17>

せっかくデジタル化という別の世界ですから、もっと楽しい、市民全体がわくわくできるようなサービスを提供できるとよいと思います。市役所に行かなくても手続きができるようになりましてというような、今の延長ではなくて、ゼロからイチを生み出すような、全く新しいことができますよということ発信していただければ、生活にも張りができるかなと思います。

### ◆市長

#### >>発言14

今後開催される関係者の方々とのミーティングのお話が出ましたが、その中で感じることは、今の課題をデジタル化によってどうやって解決ができるかということです。先ほどデジタル化のメリット、デメリットについてのお話もありましたが、今抱えているこういう課題が、デジタル化をすることによって解消することができるということを、市民の皆さんにわかりやすく説明をしていき、理解してもらおうということが非常に重要だと思いました。

#### >>発言15

学童保育所のお話がありました。デジタル化に関連したお話をすると、保護者の方々にNPOという形で運営していただいている学童保育所のケースでは、例えば運営に当たったの様々な事務手続きをいかに簡単にできるようにしていけるかということもデジタル化の役割だと思います。いずれにしても、学童保育所についての問題意識は私たちも持っていますので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

#### >>発言16

デジタル化がどのように今ある課題を解決して、みんなが健康で幸せな状況になれるかということが一つの大きなキーワードだと思いますので、そういったことを踏まえてデジタル化を進めていきたいと思っています。

## >> 発言17

今の延長線上ではなくゼロからイチを、というお話をいただきました。最近メタバースという仮想空間の中で、物の売り買いやサービスが提供されるという時代にもなりましたので、そういった世界をお伝えしていく方がよいのか、もっと違う世界をお伝えていくとよいのかはまだわかりませんが、市民生活が今とは違ったものになっていく可能性を秘めた時期だと思えます。そういった時代の転換期であり、技術によって新しい社会が生まれてくる可能性がある今だからこそ、市民の皆さんに御理解をいただき、デジタルデバイド対策にも取り組みながら、多くの方がデジタル化によるメリットをしっかりと受け取り、デメリットをできるだけ少なくする、そういう状況をつくりながら進めていく必要があると思っています。デジタル化や技術がメインなのではなく、私たちがいかに幸せに豊かに暮らせるかということが最も重要だと思えます。デジタル化が本末転倒にならないように、コミュニケーションを豊かにしていくことや絆を深めていくことに、デジタル技術でどのように貢献していくのかをしっかりと意識しながら、進めていきたいと思っています。デジタル環境は時代と共にどんどんと変化し、さいたまデジタル八策も改定されていくべきものだと思いますので、そういったことも念頭に置いて取り組めればと思います。

本日は、多様な世代の皆さんにお集まりいただき、いろいろな御意見を頂戴しました。引き続きさいたまデジタル八策に基づきながらデジタル化を進めていきますが、皆さんにいただいた具体的な御意見や考え方をしっかり参考にさせていただき、そして、市民の皆様が幸せを実感できる、そんなさいたま市になるように、引き続き取り組んでいきたいと思っています。

本日は約1時間半にわたり、貴重な御意見をいただいたことに、改めて感謝と御礼を申し上げて、私からのまとめの御挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

### ■ 補足説明

「往復はがきを使用したイベント申込のデジタル化」について

昨年度から「若田宇宙飛行士アカデミーロボットコース」におきまして「生涯学習情報システム」を活用したWebによる申し込みを開始させていただいたところです。今後のWeb等を活用した申し込みにつきましては、システム等の準備・検討を重ねて改善を進め、段階的に移行する予定です。

(教育委員会事務局 生涯学習部 青少年宇宙科学館)

「農業のデジタル化」について

ICTを活用した農業とは、インターネットを介して、クラウド上に栽培環境のデータを蓄積、生育調査のデータと合わせて分析し、その結果に合わせて栽培条件を調整することで、高い収穫量を得る農業のことです。ハウス内の機器の自動化により省力化も図っています。

(経済局 農業政策部 見沼グリーンセンター)

「選挙のデジタル化」について

候補者の氏名については、記載台に氏名掲示をしており、点字用の氏名掲示も備え付けています。

タブレットによる投票に関して、電子投票の制度があり、投票所に選挙人が出向き機械を操作して投票する方式が地方選挙に限り認められており、当初いくつかの自治体が導入しました。しかしながら、コスト面や国政選挙での実施が認められていないこと、技術的信頼性への不安などから現在導入している自治体はありません。国や他自治体の動向を注視していきたいと考えています。

インターネット投票については、現行法令上、一部の例外を除き選挙人が直接投票所へ行き自書することが定められているため、認められておりません。現状としては、総務省が開催する「投票環境の向上方策等に関する研究会」において、ICTを活用し、投票しにくい状況にある選挙人の投票環境向上等について検討されていますが、インターネット投票の導入にあたっては、その有効性ととも、セキュリティ上のリスクや不正投票の防止など様々な課題が指摘されています。実施には法令の改正などが必要なため、引き続き国等の動向を注視していきたいと考えています。

(選挙管理委員会事務局 選挙課)